242

繪本江戸爵 上

Outamaro

2.25

3 vols

242

102

繪本江戸爵序

王維山水ハ風景毫末より動き
崔白翎毛ハ翱翔紙上にいちじるし
ここに都乃唐丸江都の名勝を
圖せしめこれに狂歌好士乃狂詠を
ときあて春服すでになるといへども
いまて濟勝具を労せんものハ心ハあつくてあ
推參をもまぬかれり寝てここに圖中
風狢紙にこゝに寄人居ながら名所を

志り手(て)絵具(ゑのぐ)のはらにうぐひおし
さもゞ御江戸乃四里(よも)四方(よはう)と羽箒(はゞき)の
埃花(わくらば)蝶(どひ)行(あるき)といへども焼筆(やきふで)のすさぐ峰(ろく)の辺(わたり)
長(のど)けさ志るし昼寝(ひるね)の枕(まくら)とせしひぢハ
目睫(まつげ)まではしくまで画(いろ)く人ちらくうけ
めぐ社數邑風(とりへふう)に從(さと)樂ミひするハ
げに江戸(えど)爵(すゞめ)と題(だい)せるなるや

天明六のとし丙午ち月吉
朱楽館主人誌

ちよくと
いふも
つきはし
かど松の
数も
大門
ほまと
ゝく
手柄岡持

たつ春の
けしき
よし原
門ちかくに
あまた
大夫の
まつ
くぐり
しく
園村竹

辯天乃
もとそ吹
うらは
まふ風
り
拾ひて
志ほ干に
かひも
えし
なり

紀定麿

舟人も
汐の
みち森や
もよ紀浦
さけ乃
宮の
前を
横
みして

夕霧籬

上ノ三

春雨に
こそ
つきみれ
柳ぢし
猪牙にも
笛を
うけく
ろさ
さん

武士八十氏

ちるさくらに
柳橋から
ちれ
そめく
きとる
あらしき
屋根舟
乃
うち

坂下年寄

杜若名もゆかりある三圍乃文台のあけとうぶ紫

桴下手丸

はながゐるをとさぞて絵筆とやみやびり乃このかみうきにきらつさらしうれ

野老髭面

春陽の
あたゝか
春は
むかふ島
このま
くの
風の
いとまき

信濃
膳梲
高盛

春の
日乃
なかき
いけ
垣
むかふじま
霞も
鶴も
ひく
太郎
月

今田
銀屋住

さりれ
町
うれ
紀炭堅

初芝居
つく〳〵見
これぞ
〆餅
なる
いく
ま世
うけく

鶯も
さらり乃
花れ
乱しきて
あれく
とへりし
梅が
かつしり

赤松
日出成

咲梅の
卧龍
先生
山富
もと
花れ
董へ
き形く
鶯

臺竹
亀麿

拍子よしてうと鈴菜も三番叟ころつ女さえとそやもて七くさ

遍阿
方岳